



埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況（2017.9月末現在）

2017年に埼玉県で分離され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は9月末現在で189株です。すでに昨年1年間の検出数131株を超え、大幅に増加しています。この検出数の増加は、複数施設での集団感染事例や食中毒の発生が要因です。感染者の内訳をみると下痢・腹痛などの症状を呈した有症状者から分離されたのが109株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が80株でした。有症状者の発症日でみた月別の分離数では、1月から5月までの合計が15株でしたが、6月に9株、7月に15株と徐々に増加し、8月には52株と分離株数が急増しました。これは食中毒事例が複数発生したためです。10月に入り、細菌性食中毒の多発する高温多湿な夏場を過ぎましたが、依然として患者の発生が続いており注意が必要です。

検出された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数を下表に示しました。O血清型は、例年通りO157が116株と最も多く、次いでO26が57株でした。O157の毒素型では7割以上がVT2産生株で占められました。

表 検出された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数(2017.9月末現在)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	-	83	27	110
O157:H-	-	2	4	6
O26:H11	55	-	-	55
O26:H-	2	-	-	2
O121:H19	-	5	-	5
O111:H-	1	-	3	4
O146:H10	1	-	-	1
O84:H-	1	-	-	1
O91:H-	1	-	-	1
O93:H7	-	1	-	1
OUT:H-	-	2	-	2
OUT:HUT	-	1	-	1
	61	94	34	189

UT：型別不能 (-：0)

衛生研究所では、感染症発生動向調査の一環として病原体の収集を行っています。今後とも、ご協力をお願いします。